

教科	音楽	学年	1年	時間数	1.3 / 週
使用教科書	・音楽のおくりもの 1 (教育出版) ・音楽のおくりもの 中学器楽 (教育出版)				
副教材	・パノラマワイド版 音楽 表現と鑑賞の資料 (正進社) ・ミュージックノート (正進社) ・器楽の学習で使用するアルトリコーダー				
学習の目標					
<p>◆ 音楽科の授業を通して養う力と態度 ◆</p> <p>◎教科の目標：表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる素質・能力を次のとおり育成することを目指す</p> <p>◎学年の目標（第2学年および第3学年）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知識及び技能の習得に関する目標：曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。 2. 思考力、判断力、表現力等の育成に関する目標：曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。 3. 学びに向かう力、人間性等の涵養に関する目標：主体的・協同的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいく態度を養う。 <p>◎題材の目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 表現・歌唱 <ol style="list-style-type: none"> (1) 音の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解する。創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技術を身に付ける。歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を工夫する。また、主体的・積極的に取り組む。 (2) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解する。創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技術を身に付ける。歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫する学習に主体的・協同的に取り組む。 (3) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解する。創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付ける。歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫する学習に主体的・協同的に取り組む。 2. 表現・器楽 <ol style="list-style-type: none"> (1) リコーダーの音色や響きと奏法の関わりを理解する。創意工夫を生かした表現で演奏するためのタンギングや左手の運指などの技術を身に付ける。器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫する学習に主体的・協同的に取り組む。 (2) アルト・リコーダーの音色や響きと奏法との関わりを理解する。創意工夫を生かし、他の声部の音を聴きながら他者と合わせて演奏する技能を身に付ける。器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫する学習に主体的・協同的に取り組む。 (3) 箏の音色と奏法との関わりを理解する。創意工夫を生かした表現で演奏するための右手の使い方や縦譜の読み方などの技能を身に付ける。 3. 表現・創作 <ol style="list-style-type: none"> (1) 音のつながり方の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解する。創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な課題や条件に沿った音の選択や組み合わせなどの技能を身に付ける。創作表現に関わるちつきや技能を得たり生かしたりしながら、創作表現を創意工夫する学習に主体的・協同的に取り組む。 4. 鑑賞 <ol style="list-style-type: none"> (1) 音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりについて理解する。鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、生活や社会における音楽の意味や役割について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く学習に主体的・協同的に取り組む。（歌曲の形式の違いを鑑賞しよう「魔王」） (2) 曲想と音楽の構造との関わりについて理解する。鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く学習に主体的・協同的に取り組む。（弦楽器の豊かな表現を鑑賞しよう「春 第1楽章」） (3) 我が国や郷土の伝統音楽及びアジア地域の諸民族の音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解する。鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、生活や社会における音楽の意味や役割について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。（わが国やアジア地域の多様で豊かな声による表現を鑑賞しよう「ケチャ等」） (4) 我が国の郷土や伝統音楽及びアジア地域の諸民族の音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解する。鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、音楽表現の共通性や固有性について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く学習に主体的・協同的に取り組む。（箏曲や尺八曲の多様な表現を鑑賞しよう「六段の調」「鹿の遠音」） 					

教科・科目名	学 年	単位数	分類
音 楽	1	1.3 / 週	必修

使用教科書	音楽のおくりもの中学音楽1（教育出版） 音楽のおくりもの中学器楽（教育出版）
副教材	パノラマワイド版 音楽 表現と鑑賞の資料（正進社） ミュージックノート（正進社）…副教材は3年間継続使用
受講にあたって留意すべきこと	器楽としてアルトリコーダーを用意。 (希望者には校内にて業者による販売を実施予定)
教科の目標	表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる素質・能力を次のとおり育成することを目指す
学年の目標（第1学年）	
<p>(1) 知識及び技能の習得に関する目標</p> <p>曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 思考力、判断力、表現力等の育成に関する目標</p> <p>音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。</p> <p>(3) 学びに向かう力、人間性等の涵養に関する目標</p> <p>主体的・協同的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。</p>	
活動内容の構成	領域：A表現（歌唱活動・器楽活動・創作活動）、B鑑賞
評価の方法・基準	理論テスト、歌唱テスト、器楽テスト（リコーダー）、授業態度、提出物（鑑賞の記録、レポート）

学習計画（1学期）

1年

時期	ユニット（題材名）	主要教材	指導事項	ユニットの目標（題材の目標）
4月	A：無理のない自然な声の出し方で歌おう	発声練習 学院歌	表現・歌唱	音の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解する。創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技術を身に付ける。
5月		発声練習 合唱練習		歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を工夫する。また、主体的・積極的に取り組む。
6月	G：音楽のまとまりを生かして合わせて歌おう	自由曲練習		曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解する。創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付ける。
		発声練習 合唱練習		歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫する学習に主体的・協同的に取り組む。
7月	J：わが国やアジア地域の多様な豊かな声による表現を鑑賞しよう	◇日本とアジアの声によるさまざまな表現 ケチャミー等	鑑賞	我が国や郷土の伝統音楽及びアジア地域の諸民族の音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解する。鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、生活や社会における音楽の意味や役割について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。

※7月に合唱コンクール及び1学期末試験（筆記）の実施を予定。8月は夏季長期休暇。

評価基準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協同的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
評価の仕方	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組みと内容、授業内での活動や発言・態度 ・提出期限の厳守（観賞の記録・試験対策プリント）・定期試験の点数（筆記・実技） 	

課題	単元	各月における進捗予定													
		1学期				2学期				3学期					
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
表現・歌唱	1	無理のない自然な声の出し方で歌おう	●	●					●				●		
	2	曲の形式を生かして歌おう	●	●	●				●				●	●	●
	3	音楽のまとまりを生かして合わせて歌おう			●	●				●	●			●	●
表現・器楽	1	タンギングや左手の運指を身に付けよう				●			●	●	●	●			
	2	右手の運指や低い音を表現する奏法を身に付けよう							●	●	●	●	●	●	
	3	箏の基本的な奏法を身に付けて表現を工夫しよう												●	●
表現・創作	1	日本語の抑揚を生かした旋律をつくろう							●	●	●				
	2	制作①								●					
	3	制作②									●				
鑑賞	1	歌曲の形式の違いを鑑賞しよう「魔王」							●	●	●				
	2	弦楽器の豊かな表現を鑑賞しよう「春 第1楽章」											●	●	●
	3	わが国やアジア地域の多様な豊かな声による表現を鑑賞しよう「ケチャ等」			●	●									
	4	箏曲や尺八曲の多様な表現を鑑賞しよう「六段の調」「鹿の達音」											●	●	●
音楽史	1	日本の音楽の歴史を学ぼう（鑑賞に準じる）			●	●							●	●	●
	2	西洋の音楽の歴史を学ぼう「中世・ルネサンス」（鑑賞に準じる）			●	●									
	3	西洋の音楽の歴史を学ぼう「バロック」（鑑賞に準じる）							●	●	●				

※7月に合唱発表会及び1学期末試験（筆記）の実施を予定。8月は夏季長期休暇。

※10月初旬に実技試験（歌唱）12月に2学期期末試験（筆記）の実施を予定。

※1月初旬に実技試験（器楽）2月に学年末試験（筆記）の実施を予定。

時期	ユニット (題材名)	主要教材	指導事項	ユニットの目標 (題材の目標)
9月	D : 曲の形式を生かして歌おう	赤とんぼ ◇夏の思い出	表現・歌唱	曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解する。創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技術を身に付ける。歌唱表現に関わる知識や技術を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組む。
10月	器楽リコーダー A : タンギングや左手の運指を身に付けよう	音階練習 メリーさんの羊 歓びの歌 その他	表現・器楽	リコーダーの音色や響きと奏法の関わりを理解する。創意工夫を生かした表現で演奏するためのタンギングや左手の運指などの技術を身に付ける。器楽表現に関わる知識や技術を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組む。
11月	F : 歌曲の形式の違いを鑑賞しよう	◇魔王 (シューベルト) (ライヒャルト)	鑑賞	音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりについて理解する。鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、生活や社会における音楽の意味や役割について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く学習に主体的・協働的に取り組む。
12月	B : 日本語の抑揚を生かした旋律をつくろう	◇日本語の抑揚を活用する旋律づくり	表現・創作	音のつながり方の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解する。創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な課題や条件に沿った音の選択や組み合わせなどの技能を身に付ける。創作表現に関わるちっさき技能を得たり生かしたりしながら、創作表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組む。

※10月初旬に実技試験 (歌唱) 12月に2学期期末試験 (筆記) の実施を予定。

学習計画 (3学期)

時期	ユニット (題材名)	主要教材	指導事項	ユニットの目標 (題材の目標)
1月	器楽リコーダー B : 右手の運指や低い音を表現する奏法を身に付けよう	音階練習 アメージンググレイス その他	表現・器楽	アルト・リコーダーの音色や響きと奏法との関わりを理解する。創意工夫を生かし、他の声部の音を聴きながら他者と合わせて演奏する技能を身に付ける。器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組む。
2月	C : 弦楽器の豊かな表現を鑑賞しよう	◇「春」 第1楽章 「秋」 第1楽章	鑑賞	曲想と音楽の構造との関わりについて理解する。鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く学習に主体的・協働的に取り組む。
3月	H : 箏曲や尺八曲の多様な表現を鑑賞しよう	◇六段の調 鹿の遠音	鑑賞	我が国の郷土や伝統音楽及びアジア地域の諸民族の音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解する。鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、音楽表現の共通性や固有性について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く学習に主体的・協働的に取り組む。また、箏の音色と奏法との関わりを理解する。創意工夫を生かした表現で演奏するための右手の使い方や縦譜の読み方などの技能を身に付ける。
	器楽 箏 A : 箏の基本的な奏法を身に付けて表現を工夫しよう	◇さくらさくら ※卒業式の歌	表現・器楽	

※1月初旬に実技試験 (器楽) 2月に学年末試験 (筆記) の実施を予定。3月に邦楽特別授業を予定。